

令和3年度

県政に対する意見・要望事項

富山県商工会議所連合会

意見・要望事項  
目 次

【富山商工会議所】

- 1 コロナ禍の長期化を踏まえた中小企業・小規模事業者への支援  
について…………… P1

【高岡商工会議所】

- 2 高岡テクノドームの整備(機能拡充)について…………… P2  
3 重要文化財勝興寺の国宝指定について…………… P2  
〔 ・ 城端・氷見線のLRT化について…………… P3 〕

【氷見商工会議所】

- 4 次世代型システムによる将来も継続可能な城端・氷見線について…… P4  
＊城端・氷見線に関する高岡・砺波両商工会議所の要望と併せて記載

【射水商工会議所】

- 5 射水市における2つの商工経済団体について…………… P5  
6 「富山ぶりカニバス」の北陸新幹線富山駅との接続利便性向上と  
増便について…………… P5

【魚津商工会議所】

- 7 新規創業(ゲーム産業)に対する支援の充実について…………… P7

【砺波商工会議所】

- 8 庄川水系利賀ダムの建設促進について…………… P8  
〔 ・ JR城端線・氷見線のICカード化の早期実現とLRT化推進  
について…………… P8 〕

【滑川商工会議所】

- 9 新たな賑わい創出拠点及び都市防災拠点となる複合施設の整備  
事業等に対する支援について…………… P9

【黒部商工会議所】

- 10 県内産業の活性化について…………… P10

## 1. コロナ禍の長期化を踏まえた中小企業・小規模事業者への支援について (富山)

新型コロナウイルスの影響により深刻な影響を受けている中小企業・小規模事業者をはじめ、県経済の活力維持・強化に向けて、支援施策を一層強力に展開されたい。

### (1) 「富山県地域企業再起支援事業費補助金（従来枠）」の拡充

新型コロナからの再起を図ることを目的に創設された「富山県地域企業再起支援事業費補助金（従来枠）」については、第1次及び2次公募とも想定を超える応募があった。

今後、爆発的な感染拡大やインフルエンザとの2重感染が警戒される中、中小企業・小規模事業者への支援に万全を期すため、同補助金の継続実施及び第3次・4次の公募について予算拡充を図られたい。

### (2) 支援制度の利便性向上について

コロナ禍において、中小企業・小規模事業者が販路開拓等に活用出来る国・県の補助制度は充実しつつあるが、募集時期の重複や補助内容の類似により、制度内容の混同を招くほか、経営指導員が同時期に複数の申請支援に携わることになるため、負担も大きくなっている。

については、県が公募する補助金で、支援目的など内容が重複する補助制度については一本化され、補助限度額の増額や通年公募などに予算配分されたい。

### (3) 新型コロナ禍における事業承継について

新型コロナウイルス感染症長期化の影響でやむを得ず自社の事業継続を断念する場合において、事業譲渡が円滑に行え、雇用が維持されるよう、情報提供、買収資金の支援、専門家のアドバイス等を受けられる公的支援制度を拡充・創設されたい。

## 2. 高岡テクノドームの整備（機能拡充）について（高岡）

高岡テクノドームは、富山県、高岡市、地元経済界が中心となり、平成3年に設置されて以来、約30年が経過しようとしています。この間、展示会等の開催や研究開発型企業の育成による産業の創出を通じて、県西部地域をはじめとする県内経済の活性化に大きく寄与してきました。

本施設の周辺地域の環境は、新幹線新高岡駅や大型ショッピングセンターに隣接していることに加え、2023年春に予定される新幹線の金沢-敦賀間の開業による交流人口の拡大も期待されています。

このような背景から、高岡テクノドームが多様なニーズに対応し、県民や企業に親しまれる拠点施設となるよう、同施設の機能の拡充等に関する検討会が本年6月に取りまとめた報告書に基づき、県において基本計画が作成され、現在、基本設計に着手されているところであります。

については、この基本計画に従って、北陸新幹線の敦賀開業までに施設整備を進めていただくよう格段のご配慮をお願いします。

## 3. 重要文化財勝興寺の国宝指定について（高岡）

重要文化財勝興寺は、北陸を代表する浄土真宗の名刹であり、本堂、本坊部分、その他諸堂など12棟が重要文化財に指定されています。このたび20年余りにわたる平成の修復事業が完工し、現在、残る境内地の修景や防災施設など環境整備事業が進められており、来年3月にはすべての工事が終了し、創建当時の姿が甦ることになります。

勝興寺は、近代寺院建築としての規模の大きさや壮麗さなど、全国の寺院建築に類例がない城郭の御殿風の造りであることから、これらすべての事業が完了したあかつきには、勝興寺の文化財としての価値や評価、魅力などが格段に高まるものと考えます。

については、歴史都市高岡のさらなる充実・発展のため、重要文化財勝興寺の国宝指定について、格段のご配慮をお願いします。

## ○ 城端・氷見線のLRT化について（高岡）

城端線・氷見線は、沿線市、交通事業者等で構成する城端・氷見線活性化推進協議会が、平成29年度に策定した「城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画」に基づき、両線のさらなる利便性の向上や直通化に向けた検討など、沿線地域の活性化のための各種施策に取り組んでいます。

そのような中、令和2年1月にJR西日本が城端線・氷見線のLRT化など新たな交通体系を提案したことを受け、富山県と沿線4市は、JRとともにこの提案について検討を進められているところです。県西部地域の広域連携の推進、持続的発展にとって城端線・氷見線の利便性の向上と一体的な運用は、大変重要な課題であります。

については、城端・氷見線の活性化と沿線の新たな街づくりのため、両線のLRT化について、沿線4市との十分な協議のもと、地域に過大な負担がかからない形での導入をご検討下さるよう格段のご配慮をお願いします。

#### 4. 次世代型システムによる将来も継続可能な城端・氷見線について

(高岡、氷見、砺波)

J R城端・氷見線は、新高岡駅からの2次交通や通勤・通学を始めとした交通弱者にとっての重要な生活路線であり、J R西日本から「将来も継続可能な路線」としての提案を受け、県を始め4市が連携する中でL R T化を含む検討がなされており心強く思っています。県西部地域の広域連携の推進、持続的発展にとって同線の利便性の向上と一体的な運用は、大変重要な課題であります。

L R T化を推進する交通体系整備は、環境を大切にする県の政策として県民は誇りを感じ、県外生活者に好印象を与え移住やリモートワーカーの選択肢に結び付くものと考えます。

フランス南部で走る次世代型最先端L R TやJ R東日本が世界に先駆け2007年に小海線を走らせたハイブリッド車は、その後、リゾートトレンHB-E300系や仙石東北ラインにて、環境負荷の軽減を図っています。さらに、近未来に向けてJ Rは二酸化炭素排出量ゼロを目指し、ハイブリッド車両「HYBARI（ヒバリ）」の開発を急いでいます。

人と環境に優しく地域住民の心が豊かになる先進的L R T化・ハイブリッド化の導入により、公共交通機関として再評価される仕組みを積極的に検討いただくことで、新駅設置も含めた街づくりと城端線と氷見線の直通化により利用率向上へと結びつけることが、ランニングコスト削減への道と考えます。

是非とも、沿線4市との十分な協議のもと、「環境に優しく、初期投資を抑制し、運営コストの軽減が見込める」最先端システム導入のご検討を要望いたします。また、あいの風とやま鉄道や北陸新幹線からの乗り換えや無人駅における利便性向上の観点から、早急にICカードの利用ができるよう整備をお願いいたします。

## 5. 射水市における2つの商工経済団体について（射水）

射水市内には、ほぼ同規模の射水市商工会と本所の2つの商工経済団体があり、射水市商工協議会を組織し、連携しながら本市の地域経済の活性化を図るべく取り組んでおります。

平成の市町村の大合併に伴い、商工会議所と商工会組織のあり方について議論もあったようであり、国においては、合併等の当事者である両団体の議論を尊重し、現段階において合併に係る法整備を行うことについては、慎重であるべきとの立場でありました。特に地方においては、少子高齢化、人口減少が急速に進行し、これまでもデジタル化による生産性向上対策が進められておりましたが、更に本年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に対応するため、事業者は、急激なデジタル化による対応が必然となっております。

このような状況下において、中小・小規模事業者への支援機関である商工経済団体は、多様化、専門化する経営課題への事業者ニーズに的確に対応し、支援体制を強化していかなくてはならないと考えております。

また、アフターコロナに向けた新しい生活様式を踏まえた経済対策、まちづくり、地方創生など、市全体で取り組まなければならない喫緊の地域課題があるなか、特に本市のようなコンパクトな行政区においては、市と連携しながら、課題解決に向け、商工経済団体も一体となって取り組んでいく必要があります。

つきましては、県におかれましては、行財政改革の観点からも、一行政区に複数ある商工経済団体の一体化についてご尽力賜りますよう要望します。

## 6. 「富山ぶりカニバス」の北陸新幹線富山駅との接続利便性向上と増便について（射水）

北陸新幹線富山駅と新湊地区及び氷見地区を結ぶ観光定期路線バス「ぶりカニバス」は、主に県外観光客の2次交通として、富山駅から直接、新湊大橋や海王丸パーク、雨晴海岸、そして、ひみ番屋街まで行くことができ、魅力ある富山湾岸沿いを運行されております。

しかしながら、富山駅のバスターミナルの状況によることも考えられますが、新幹線及び「ぶりカニバス」の発着時間が連動しているとは言えません。平日は往復2便（休日は往復3便）の運行でもあり、少しでも利便性を向上し、多くの方々に乗車いただきたいと考えております。

つきましては、今後の県外からの観光客の利便性向上のためにも、「ぶりカニバス」の発着時間の改善と増便について格段のご配慮をお願いします。

## 7. 新規創業（ゲーム産業）に対する支援の充実について（魚津）

当市における事業所数、従業員数は年々減少傾向にあり、H28年の事業所数は2,421社で前回調査（H24）に比べ175社（▲6.7%）減少しており、従業員数もH28年が20,647人と前回調査（H24）に比べ1,142人（▲5.2%）減少している（H28経済センサス基礎調査より）。当所会員事業所数も廃業等の事情により毎年30社程度減少しており、事業所数の維持、拡大は当所が直面する大きな課題となっている。

このため、新規創業を促進し雇用の増加について協議する中で、首都圏から離れた地域でも起業でき、幅広い年齢層に関心の高い「ゲーム産業」に注目し、平成29年に市、商工会議所及び北陸能開大が連携しゲーム産業の育成を図る目的で実行委員会（つくるUOZUプロジェクト）を立ち上げました。当所青年部、市の若手職員が中心となり、当市出身で都内にてゲーム会社を起業しておられる方との縁も活かしながら、県内外の若者や新しい事に挑戦したい人達を対象に人材育成、創業支援、企業誘致に取り組んでいます。

これまで、「ゲームクリエイター養成フォーラム」や「ゲーム開発体験合宿」を実施しており、これらの事業への参加者が市内において新規創業されるなど、成果が見られつつあります。

今後は、「ゲーム産業の街」魚津としての新規産業の確立を図るべく市、商工会議所が連携しPRイベントやホームページによるPR強化に取り組んでいきますが、県におきましても「つくるUOZUプロジェクト事業」に対しPR活動へのご協力をお願いいたします。

また、当市ではゲーム産業育成の支援として創業者に対する開業助成金の給付や、県外企業のサテライトオフィスの新設助成等実施しておりますが、県におかれても、新規産業育成を目的とした講習会やイベントの開催費、創業助成金等、支援の充実を図って頂きたい。

## 8. 庄川水系利賀ダムの建設促進について（砺波）

利賀ダムは2031年までの事業年度が公表され、完成までの目処がたちましたが、近年、全国で発生している豪雨による「水害、土砂崩れ」が庄川水系においても「いつ起きてもおかしくない気象」となっています。一日も早い完成をお願いいたします。

### ○ JR城端線・氷見線のICカード化の早期実現とLRT化推進について（砺波）

現在、県が中心となりJR城端線・氷見線においてLRT化への検討が進められていますが、次の2点について要望します。

#### ① ICカード化の導入

砺波の場合、昨年4月下旬に開催された「となみチューリップフェア」にあの風とやま鉄道や新幹線で来場される観光客が、精算手続きをしないと駅から出られない事態があり、帰られる観光客の方もおられました。来県される方々に不便のないよう、また無人駅に対応する必要もありますので、早急にICカードの利用ができるよう整備をお願いいたします。

#### ② LRT化促進

呉西にとって大きなメリットがあると考えており、早期の城端線・氷見線LRT化の実現に向けて研究を促進していただきますようお願いいたします。

## 9. 新たな賑わい創出拠点及び都市防災拠点となる複合施設の整備事業等に対する支援について（滑川）

富山地方鉄道中滑川駅周辺は、滑川市の既成市街地が形成され、かつては「まちの顔」となる地域でしたが、郊外型の大規模集客施設の立地や新興住宅の郊外化、J A施設の撤退等により、中心市街地としての集客力の低下が進んでいる状況にあります。

そのため滑川市では、中滑川駅を中心とした交通結節点の利点を活かすべく、集い・滞在・交流できる地域の賑わい創出の拠点とともに、市民の生命と暮らしを守る都市防災の拠点ともなる新たな複合施設の建設整備と、それにアクセスする都市計画道路橋場国道線の改良整備を計画されております。

この新たな複合施設等につきましては、市内の商業や飲食・サービス業の振興にとっても大きく寄与するものと期待しているところであり、これら計画の整備促進と財政支援について各段のご配慮をお願いいたします。

## 10. 県内産業の活性化について（黒部）

### (1) 起業・創業者支援の拡充について

全国的に事業所数は減少し、富山県においても同様と思われる中で、県内産業の活性化を図るためには、北陸新幹線が開業し2時間圏内となった関東圏での更なる積極的な周知活動が必要と考えております。

県民起業家の支援はもとより、県外からの富山県内での起業家支援体制も拡充すべきと考えます。その一策として、公共施設等のインキュベーション施設等への再利用の推進を進め、県所有の施設に限らず市町村所有の立地条件の良い小・中学校施設の再利用推進にご尽力いただきたく、要望いたします。

特に少子化等により統廃合となる市町村立の小中学校は、存立する地域の中心部に立地している場合が多く、その利活用状況を見ますと、公民館等への転用が多くみられます。

経営資源に乏しく、特に事業を営む基盤となる事務所や工場、店舗の確保が難しい起業家にとって、分けられた教室やグラウンドを含む学校施設のインキュベーション化は工業関係はもとより商業・サービス業関係での創業を考える際には有力な検討拠点となると思われます。低廉な家賃設定等の制度の拡充と合わせ、県内自治体への働きかけを要望いたします。

### (2) 再生可能エネルギー開発に中小企業の活用を

また、県内産業の活性化には、繋げるためにも、頑張る中小企業の技術力を多方面にわたり有効活用し、それを広くPRしてゆくことも必要と考えております。

今般新たな国の指針として、ゼロカーボン社会を目指すとの発表がございました。私たちの立地する富山県は全国有数の包蔵水力を有しますが、利活用されている部分は少なく且つ河川法をはじめとする関係法令により利活用が厳しく管理されております。

この様な中で、全国に先駆ける再生可能エネルギーの有効活用事例として、県の管轄される2級河川を民間技術活用の小水力発電等への開放を強く要望いたします。

現状では、片貝川で1か所利用されておりますが他の河川でも発電可能であり、広く県内各所での発電を希望するものです。

富山県内には全国でもトップクラスの発電技術を有する企業が複数存在し、ODAをはじめとした数々の海外支援にも参加し実績を残しております。県内中小企業の技術発展のためにも有用と考え、宜しく願いいたします。